



9th KIKUCHI BIENNALE

第9回 菊池ビエンナーレ  
作品募集及び展覧会開催についてのご案内



第8回  
左) 大賞: 中村清吾《白磁鉢》  
右) 優秀賞: 森山寛二郎《切り継ぎ一週一》

このたび公益財団法人菊池美術財団が主催する陶芸の公募展  
第9回菊池ビエンナーレの公募を開始しましたので  
作品募集概要および展覧会開催概要についてご案内申し上げます。

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当館の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度は「第9回菊池ビエンナーレ」の開催につきましてご案内させていただきます。公益財団法人菊池美術財団は、活動の一環として2004年度より「菊池ビエンナーレ」を行っております。この事業は、全国から陶芸作品を公募し、現代陶芸の「今」を探ろうとするもので、現代陶芸の紹介を設立趣旨とする当館の主幹事業です。

第9回菊池ビエンナーレは今夏に2回（一次：画像、二次：作品）の選考審査を行ったのち、入賞・入選を選定し、入選作は2021年12月から2022年3月開催予定の展覧会にて公開いたします。

つきましては作品募集概要および展覧会開催概要をお送りいたしますので、菊池ビエンナーレをひとりでも多くの皆さまにお知らせいただき、周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

【お問合せ先】

菊池寛実記念 智美術館

（担当：足立）

電話 03-5733-5131

FAX 03-5733-5132

【ご参考】前回（第8回）の会場風景



## 作品募集概要

**応募資格**：陶芸における創作活動を行う方。海外からの応募者は、日本国内在住者を代理人として、出品料の納入および、第2次審査の作品の搬入、返却が可能な方。

**作品の範囲**：作品点数は一人一点。組み作品は一点とみなします。

未発表作品であり、応募日の一年以内に制作された作品であること。

作品サイズの制限はありませんが、梱包後の1辺が100cmを超える作品、

重量が30gを超える作品、易損作品は宅配便で返却できないため、

審査結果によっては返却時の輸送手段を応募者本人が手配すること。

もしくは智美術館が指定した輸送手段に従い、場合によっては輸送費を一部負担すること。

---

## 審査員

唐澤 昌宏（国立工芸館 館長）

大長 智広（京都国立近代美術館 研究員）

秋山 陽（陶芸作家）

前田 昭博（陶芸作家）

菊池 節（菊池寛実記念 智美術館 館長）

島崎 慶子（菊池寛実記念 智美術館 主任学芸員）

---

## 作品選考

### 書類・画像締切

5月18日（火）必着 ※締切日が前回よりも早くなっておりますのでご注意ください。

### 第1次画像審査/6月上旬

応募作品の画像データにより、第1次審査を行います。

### 第2次作品審査/7月上旬

第1次審査を通過された方の作品を、当館が指定する場所へ搬入していただきます。

作品の実見により、第2次審査を行い、入選及び入賞作品を選考致します。

**賞・賞金** 大賞 1点 150万円

優秀賞 1点 30万円

奨励賞 3点 10万円

入選者には賞状をお渡しいたします。

大賞作品は菊池寛実記念 智美術館に収蔵されます。

【ご参考】前々回（第7回）および前回（第8回）の実績

■応募総数および選考結果

第7回

応募総数 322点

一次通過 118点

入選 52点（うち入賞5点）

第8回

応募総数 276点

一次通過 125点

入選 54点（うち入賞5点）

■入賞者

第7回

●大賞 和田 的（わだ あきら）

●優秀賞 津守 愛香（つもり あいこ）

●奨励賞 中田 雅巳（なかだ まさる）

釣 光穂（つり みつほ）

田島 正仁（たじま しょうに）

第8回

●大賞 中村 清吾（なかむら せいご）

●優秀賞 森山 寛二郎（もりやま かんじろう）

●奨励賞 伊藤 公洋（いとう こうよう）

高橋 朋子（たかはし ともこ）

中里 浩子（なかざと ひろこ）

第7回

【大賞】和田 的《表裏》

【優秀賞】津守 愛香《人魚仏》

第8回

【大賞】中村 清吾《白磁鉢》

【優秀賞】森山寛二郎《切り継ぎ-廻-》



第7回【奨励賞】

中田 雅巳《SEN》

釣 光穂《Ivy》

田島 正仁《彩釉鉢》



第8回【奨励賞】

伊藤 公洋 《志野彩文盤》

高橋 朋子《銀彩塞器 皓月》

中里 浩子《Flower Scapes》



## 【本展の特徴】

- ◆本展は、菊池寛実記念 智美術館の主要な事業として開館の翌年の 2004 年度から開始した公募展で、器の形態から用途のない造形まで幅広く募集・審査し、「現代陶芸の今」を俯瞰する展覧会です。
- ◆応募者の割合は、第 7 回展が男性 61.5%、女性 38.5%、第 8 回展が男性 58%、女性 42% でしたので、徐々に女性の割合が増えています。
- ◆応募者の年齢層は 40 代が 28.2% と最も多く、最年少のお申込者は 20 歳、最年長のお申込者は 82 歳と、学生からプロの制作者まで幅広くお申込みいただいています。
- ◆入選者の年齢層は 40 代が 35.2% と最も多く、40 代の制作の充実ぶりがうかがえる結果となっています。最年少の入選者は 27 歳、最年長の入選者は 72 歳でした。
- ◆入選作品は全て撮影され、作家情報とともに当館の発行する図録（A4 変形判、50p 程度）に掲載されます。過去の図録は当館受付および通信販売にて現在もお求めいただけます。
- ◆第 8 回展は第 7 回展、第 6 回展に比べ入館者数が増加傾向にあり、これまでの公募展の継続が、企画の周知につながっていると考えます。
- ◆他の公募展の現状を鑑みると、毎日新聞社主催の日本陶芸展の中止を受けて現代陶芸の公募展を都内で鑑賞できる機会が減っていることから、菊池ビエンナーレを継続することは今後より一層重要になると考えています。
- ◆会期中には入賞作家によるギャラリートーク 2 回、入選作家によるギャラリートーク 2 回、担当学芸員によるギャラリートーク 3 回を実施しました（ただし、うち 2 回は新型コロナウイルスの影響で中止）。作家の言葉を直接聞く事が出来る機会として好評です。
- ◆また、会期中には当館ミュージアムショップにて、出品作家の小作品を取り扱い、展覧会を多角的にお楽しみいただく機会としています。
- ◆幅広い作品を審査するにあたり、委嘱する審査員は毎回専門分野が偏らないよう配慮しています。そのため、前回も器の形態作品と用途のない造形作品はバランスよく選出されています。

## 展覧会概要

展覧会名：第 9 回菊池ビエンナーレ展 現代陶芸の<今>  
会 期：2021 年 12 月 11 日（土）～2022 年 3 月 21 日（月・祝）  
休館日：月曜日（ただし 1/10、3/21 は開館）、1/11、年末年始（12/27～1/3）  
入館料：一般 1,100 円／大学生 800 円／小中高生 500 円  
会 場：菊池寛実記念 智美術館（東京都港区虎ノ門 4-1-35）  
主 催：公益財団法人 菊池美術財団、日本経済新聞社（予定）

展示内容：当館が委嘱した審査員により第 1 次画像審査、第 2 次作品審査を行い、入賞および入選した作品約 50 点程度を菊池寛実記念 智美術館の展示室にて一堂に展示します。

※応募要項は以下よりご確認ください。

[https://www.musee-tomo.or.jp/assets/pdf/biennale/9th\\_Kikuchibiennale.pdf](https://www.musee-tomo.or.jp/assets/pdf/biennale/9th_Kikuchibiennale.pdf)